様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０３０３４

研究課題名（和文）児童から高齢者を対象とした善悪判断の心理メカニズムの解明とその支援

研究課題名（英文）Psychological mechanism and the social support for social decision making in lifelong development

研究代表者
米田　英嗣（Komeda, Hidetsugu）

青山学院大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：５０７１１５９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、社会における人間の意思決定能力である善悪判断の心理学的メカニズムを解明し、効果的な支援方法を開発することであった。発達障害についてのハンドブックにおいて、「Cognitive, Emotional, and Moral Decision Making in Adolescents and Adults with ASD.」という章を単著で執筆し、自閉スペクトラム症児者の意思決定や善悪判断について展望した。心理学評論誌において、「こころの多様な現象としての共感性」という展望論文を執筆し、自閉スペクトラム症、アレキシサイミア、サイコパシーそれぞれの共感の問題について考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
善悪の判断は、歴史的に、哲学、経済学の分野で議論されてきた問題である。アダム・スミスは、「道徳感情論」の中で、道徳感情である利他心と、人間の利己心について議論をしている。道徳判断の研究は、人間の意思決定や発達過程を明らかにする心理学的実験手法（ブルーム，2015；唐沢，2013）、脳の機能や構造を検討する脳科学的手法を用いて解明する試みがなされている（Decety & Wheatley，2015；金井，2013）。したがって、善悪判断の研究分野は、善悪といった価値の判断についての哲学的側面と、人間の行動原理を解明する科学的側面の両方が必要な学際的な検討課題である。

研究成果の概要（英文）：At first, I investigated cognitive decision making in children and adults with/without Autism Spectrum Disorders (ASD). Second, emotional decision making in children and adults with/without ASD was discussed. Alexithymia traits and interoception have an important impact of emotional decision-making. Alexithymia is characterized by difficulties in recognizing emotions from internal bodily sensations. Alexithymia frequently co-occurs in individuals with ASD (50%; Hill, Berthoz, & Frith, 2004; Shah, Hall, Catmur, & Bird, 2016). I studied the effect of comorbidity, such as ASD with alexithymia traits, on decision making processes. Third, moral decision making was investigated. Individual differences were examined by comparing children with ASD. Finally, I proposed support program for decision making enhancement for children and adults with ASD.

研究分野：教育心理学、認知心理学

キーワード：共感性　道徳　善悪判断　自閉スペクトラム症　非定型発達

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

善悪の判断は、歴史的に、哲学、経済学の分野で議論されてきた問題である。たとえば、アダム・スミスは、「道徳感情論」の中で、道徳感情である利他心と、人間の利己心について議論をしている (Smith, A. (1790/2011)。近年では、道徳判断の研究は、人間の意思決定や発達過程を明らかにする心理学的実験手法 (ブルーム, 2015; 唐沢, 2013)、脳の機能や構造を検討する脳科学的手法を用いて解明する試みがなされている (Decety & Wheatley, 2015; 金井, 2013)。したがって、善悪判断の研究分野は、善悪といった価値の判断についての哲学的側面と、人間の行動原理を解明する科学的側面の両方が必要な学際的な検討課題である。「人間の本性とは何か」が、研究課題の核心をなす学術的「問い」である。

２．研究の目的

人間の本性に関連する重要なテーマを、教育心理学的実験技法、認知科学的研究手法、発達精神病理学アプローチに基づいた多面的な観点から検討する。従来の研究では、ある特定の年齢を対象とし、発達障害の児童などに対して行動の観察や面接法によって記述したものが多かった。本研究課題では、申請者および研究協力者の卓越した研究手法・研究協力体制を駆使して、幅広い年代の自閉スペクトラム症児童および成人、冷淡・無感情特性が高い児童およびサイコパシー特性の高い成人、高齢者を対象として、認知メカニズムの解明と得られた基礎的知見に基づく支援をめざす。独創的な点は、善悪判断という主観的な問題に関して、多様な共感性を持つ人物を対象に検討をする点である。万人にとって絶対的な善悪がないのであれば、ある事象に対して善である、あるいは悪であると考える際の個人差を明らかにすることは、人間の相互理解を促進するために重要であると考える。

創造性として、第一に、自閉スペクトラム症児は定型発達児とは異なった方略で他者の善悪を判断していることを示唆し、道徳教育および児童のいじめ防止プログラムの開発に有益な知見を提供できると考える。第二に、児童を対象にした研究では、共感性育成トレーニングの開発に寄与し、成人を対象にした研究では、サイコパシー特性が高い成人が持つ認知的共感を用いて、情動的共感を代償するトレーニング法を開発できる可能性がある。第三に、高齢者に対する詐欺被害防止に重要な知見を提供できる。高齢者が持つ善悪判断における認知的能力の低下の脳神経メカニズムが明らかになれば、詐欺被害を抑止するプログラムの開発に貢献できると考える。

３．研究の方法

自閉スペクトラム症の児童を対象として、心理実験を用いて善悪判断の方略を解明する。物語を用いて仮想状況を設定し、登場人物の善悪がいかに判断されるかを検討する。登場人物が行った行動の結末が、善意あるいは悪意のどちらに基づいて起こされたのかを検討する。

1) 太郎君は(お母さんのお手伝いをしようとして)テーブルを片付けていた。
2) 太郎君は、(こっそりつまみ食いをしようとして)戸棚によじ登った。

「太郎君は、コップを割ってしまった。」という結末が同じネガティブなものであっても、1)と2)では、結末文の善悪の判断が異なると考えられる。2)の文脈を与えるほうが 1)の文脈を与えるよりも、結末が悪いと判断されると考えられる。自閉スペクトラム症児は、明示された意図に基づく人物判断には優れるが、暗示された意図の判断には困難を示すと考えられる (子安, 2009)。たとえば、(お母さんのお手伝いをしようとして)といった情報が与えられた場合における善悪判断では高い正答率を示すのに対し、情報が与えられず推論が必要な場合における善悪判断の正答率は低いと予想する。この結果は、自閉スペクトラム症児は登場人物の善悪を、観察可能な行動に基づいて判断する傾向があることを示す。自閉スペクトラム症児は定型発達児とは異なった方略で他者の善悪を判断していることを示唆し、道徳性の教育に有益な知見を提供できると考える。

４．研究成果

本研究の成果を、下記にまとめ、2021 年 11 月に出版した。
Khemka, I. and Hickson, L. (Eds.) Decision Making by Individuals with Intellectual and Developmental Disabilities: Integrating Research into Practice (Positive Psychology and Disability Series)
「Cognitive, Emotional, and Moral Decision Making in Adolescents and Adults with ASD.」という章を単著で執筆し、自閉スペクトラム症児者の意思決定や善悪判断について展望した。

2019 年 11 月には、心理学評論誌に「こころの多様な現象としての共感性」という展望論文を執筆し、自閉スペクトラム症、アレキシサイミア、サイコパシーそれぞれの共感の問題について考察を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 Suzumura Nao、Nishida Toshiki、Maki Nao、Komeda Hidetsugu、Kawasaki Masahiro、Funabiki Yasuko	４．巻 172
２．論文標題 Atypical cortical activation during fine motor tasks in autism spectrum disorder	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Neuroscience Research	６．最初と最後の頁 92～98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neures.2021.04.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 米田英嗣・西田マリア	４．巻 64
２．論文標題 物語理解における時空間となつかしさ	５．発行年 2021年
３．雑誌名 心理学評論	６．最初と最後の頁 88-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24602/sjpr.64.1_88	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Komeda Hidetsugu、Kosaka Hirotaka、Fujioka Toru、Jung Minyoung、Okazawa Hidehiko	４．巻 10
２．論文標題 Do Individuals With Autism Spectrum Disorders Help Other People With Autism Spectrum Disorders? An Investigation of Empathy and Helping Motivation in Adults With Autism Spectrum Disorder	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	６．最初と最後の頁 376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2019.00376	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 米田 英嗣、間野 陽子、板倉 昭二	４．巻 62
２．論文標題 こころの多様な現象としての共感性	５．発行年 2019年
３．雑誌名 心理学評論	６．最初と最後の頁 39～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24602/sjpr.62.1_39	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Harada Tokiko、Mano Yoko、Komeda Hidetsugu、Hechtman Lisa A.、Pornpattananangkul Narun、Parrish Todd B.、Sadato Norihiro、Iidaka Tetsuya、Chiao Joan Y.	4．巻 137
2．論文標題 Cultural influences on neural systems of intergroup emotion perception: An fMRI study	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Neuropsychologia	6．最初と最後の頁 107254～107254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuropsychologia.2019.107254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 米田英嗣・安達真理子・大塚 類	4．巻 11
2．論文標題 国語科における鑑賞教育の可能性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 青山学院大学 教育人間科学部紀要	6．最初と最後の頁 147～156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/21287	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Komeda Hidetsugu、Eguchi Yoko、Kusumi Takashi、Kato Yuka、Narumoto Jin、Mimura Masaru	4．巻 9
2．論文標題 Decision-Making Based on Social Conventional Rules by Elderly People	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 9(1412)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2018.01412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Komeda Hidetsugu、Taira Tomohiro、Tsunemi Kohei、Kusumi Takashi、Rapp David N.	4．巻 7
2．論文標題 A sixth sense: Narrative experiences of stories with twist endings	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Scientific Study of Literature	6．最初と最後の頁 203～231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/ssol.17002.kom	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Iidaka Tetsuya、Kogata Tomohiro、Mano Yoko、Komeda Hidetsugu	4．巻 10
2．論文標題 Thalamocortical Hyperconnectivity and Amygdala-Cortical Hypoconnectivity in Male Patients With Autism Spectrum Disorder	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6．最初と最後の頁 10:252.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2019.00252	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小山内秀和・古見文一・北島美花・近藤千恵子・所 歩美・米田英嗣・楠見 孝	4．巻 26
2．論文標題 物語への没入体験と社会的能力の向上の関連：成人と児童の比較	5．発行年 2019年
3．雑誌名 認知科学	6．最初と最後の頁 108-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11225/jcss.26.108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 米田英嗣・溝川 藍・別府 哲・浅田晃佑・本田秀夫・日戸由刈・森村美和子・藤野 博
2．発表標題 自閉スペクトラムの科学的支援にむけて(2)
3．学会等名 日本心理学会公開シンポジウム
4．発表年 2021年

1．発表者名 米田英嗣
2．発表標題 ASD小学生における人物判断　発達心理学会ラウンドテーブル話題提供 「学齢期から青年期への「移行期」におけるASD者の心理的課題 －認知機能の発達と精神的健康および適応状態－」
3．学会等名 日本発達心理学会 第33回大会
4．発表年 2022年

１．発表者名 米田英嗣
２．発表標題 読書が育む社会的能力.
３．学会等名 日本認知科学会「学習と対話」研究分科会
４．発表年 2021年

１．発表者名 米田英嗣
２．発表標題 公募シンポジウム「言語習得の心理・神経基盤および教育への応用」企画、指定討論
３．学会等名 日本心理学会第84回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 米田 英嗣、福田 由紀、森田 愛子、David N. Rapp、Kichun Nam、森島 泰則
２．発表標題 国際委員会企画シンポジウム"Narrative Experience: Cognitive and Emotional Influences on Text Comprehension" 企画、司会
３．学会等名 日本認知心理学会第17回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山本 渉太、上宮 愛、渡邉 和美、横田 賀英子、越智 啓太、米田 英嗣
２．発表標題 公募シンポジウム「脆弱な被面接者に対する捜査面接」指定討論
３．学会等名 日本心理学会第83回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 米田 英嗣，林 創，池田 まさみ，松尾 直博
２．発表標題 公募シンポジウム「道徳教育における教育心理学の貢献」企画、司会、話題提供
３．学会等名 日本教育心理学会第61回総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 米田 英嗣、藤野 博、本田 秀夫、日戸 由刈、森村 美和子
２．発表標題 公開シンポジウム「自閉スペクトラムの科学的支援にむけて」企画、司会
３．学会等名 日本心理学会公開シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 米田英嗣
２．発表標題 道徳性の多面的検討
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米田英嗣
２．発表標題 自閉スペクトラム症の人たち同士の共感性
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 米田英嗣・市村賢士郎・西山 慧・西口美穂・渡邊智也
２．発表標題 文学読解は社会的能力を高めるか？
３．学会等名 人工知能学会全国大会（第32回）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計7件

１．著者名 高櫻 綾子(編著)	４．発行年 2021年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 136
３．書名 「子どもの育ちを考える 教育心理学 ―人間理解にもとづく保育・教育実践―」第5章　学習することで世界は変わるか？－発達に応じた学習と思考・知能の発達－（米田英嗣）	

１．著者名 日本児童研究所(監)	４．発行年 2021年
２．出版社 金子書房	５．総ページ数 264
３．書名 児童心理学の進歩　VOL.60［2021年版］」2章　物語理解と感情（米田英嗣・間野陽子）	

１．著者名 Hidetsugu Komeda (Chapter 15) Ishita Khemka, Linda Hickson (Eds.)	４．発行年 2021年
２．出版社 Springer.	５．総ページ数 568
３．書名 Decision Making by Individuals with Intellectual and Developmental Disabilities: Integrating Research into Practice. “Cognitive, Emotional, and Moral Decision Making in Adolescents and Adults with Autism Spectrum Disorder”を執筆	

１．著者名 日本児童研究所(監)	４．発行年 2020年
２．出版社 金子書房	５．総ページ数 264
３．書名 「児童心理学の進歩　VOL.59[2020年版]」、［書評シンポジウム］亀田達也著『モラルの起源――実験社会学からの問い』、Ⅱ書　評、２．利他性を導く多様な共感性（米田英嗣）	

１．著者名 米田英嗣・津村将章	４．発行年 2020年
２．出版社 誠信書房	５．総ページ数 182
３．書名 物語を用いた消費者行動―ナラティブ・プロジェクションに基づく検討― 米田英嗣・和田裕一（編）消費者の心理をさぐる―人間の認知から考えるマーケティング	

１．著者名 （監修）高見 茂、田中 耕治、矢野 智司、稲垣 恭子（編著）楠見　孝	４．発行年 2018年
２．出版社 協同出版	５．総ページ数 269
３．書名 教職教養講座　第８巻　教育心理学	

１．著者名 藤野　博 編著、本郷　一夫 監修（シリーズ監修）	４．発行年 2018年
２．出版社 金子書房	５．総ページ数 128
３．書名 「コミュニケーション発達の理論と支援」、【第Ⅳ部　トピックス】第11章　自閉スペクトラム症者同士の共感性――物語理解に基づく検討（米田英嗣）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=ymdbgdoeggy

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関